

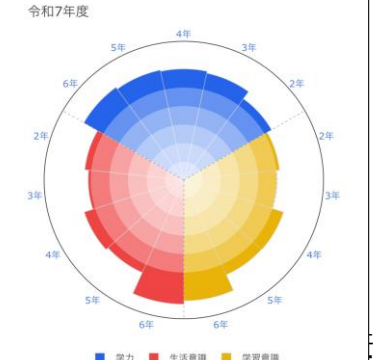
学校教育目標
「生きる 創る そして輝く」を目標とし、子ども自らの「生きる力」を育てます。 (知) 知的好奇心を生かし、自らの力で学びを創る子どもを育てます。 (徳) 多様な相手の思いや願いに向き合い、自分の強みも大切にできる子どもを育てます。 (体) 自分や相手の心や体の健康を大切し、ともに生活できる子どもを育てます。 (公) 地域や社会における自分の役割を見つけ、行動に移す子どもを育てます。 (関) 多様な考えや思いにふれ、さまざまな他者と前向きに関わり合う子どもを育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
◎言語能力 ・多様な事象を分析し自分の考えを形成する力 ・伝え合うことで自分の考えを見つめ深める力 ◎問題発見・解決能力 ・協働的に学びや生活を創る力 ・課題解決に向けて、自己調整しながら粘り強く取り組む力 ◎自分づくりに関する力 ・自分らしさや相手のよさを、互いに認め合える姿勢（態度） 多様な情報を俯瞰し、意思決定する力	・多様な事象を分析し自分の考えを形成する力 ・伝え合うことで自分の考えを見つめ深める力 ・協働的に学びや生活を創る力 ・課題解決に向けて、自己調整しながら粘り強く取り組む力 ・自分らしさや相手のよさを、互いに認め合える姿勢（態度） 多様な情報を俯瞰し、意思決定する力

中期取組目標
子どもたちの「生きる」力を育てるために、次の姿を目指します。 (知)・学習や活動に集中して取り組む姿 ・未知の問題や困難な場面对してもチャレンジしようとする姿 (徳)・思いやりをもち、友達と協力して活動する姿 ・ルールの大切さを理解し、実践する姿・あいさつやマナーを大切に行動する姿 (体)・進んで運動に取り組む、体力アップに努める姿・自分や友達の心身の健康に意識を向ける姿 (公)・歴史ある青木のまちや学校へ愛着をもち、その伝統を受け継ぎ未来につなげていく姿・社会の一員として、自分の行動に責任をもとうとする姿 (関)・国籍や文化、性別や年齢などをこえて、多様な考え方に理解を示しながら関わる姿

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①横浜市学力・学習状況調査、Y-P等の結果と教師のみとりをもとに、児童が輝く場面を設定し、聞くことや話すことを通して学びを深めるように授業改善を図る。②各学級で生活や総合的な学習の時間を中心とした年間指導計画を作成し、カリキュラムマネジメントに取り組んでいく。
担当	教育課程部会

学力向上に関わる本校の状況
(1) 学力に関わる児童の実態  令和7年度 技能Jの観点の力に定着が見られ、資料と資料を関連付けて様子や変化捉える事や資料などを根拠に考えをもつことが弱い傾向にある。 (2) これまでの学校の取組状況 「知識・技能」の定着は、日々の授業や継続的に取り組んでいる朝学習や自主学習、家庭学習などの成果の表れと考えられる。「思考・判断・表現力」を高めるために、生活・総合を核に各教科等で友達のことを聞き、共感したり、違いを見つたりするだけでなく、考えをじっくりと聞くことで自分の考えを広げ、思考を深めることを大切にした授業を展開してきた。

今年度の目標
子どもや集団の課題をとらえ、各学級のカリキュラムマネジメントを見直し、特に思考力・判断力を高めることを意識した授業づくりを行う。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 1年 自分の思いをもって学習活動に取り組み、気づきや考えを自分なりの方法で表現できるようにする。 2年 授業中の発言の仕方を定着させ、話し合いの場を多くとり、学びを深められるようにする。 3年 これまでの学習を生かしながら自分の考えを深め、伝える力を高めていく。その中で互いに考えを認め合い、話やすい雰囲気をつくる。 4年 聞くことを通して、自分の考えを見つめ直したり理解する力を高める。語り合う場面を設定し、その中でよい聞き方を意識づけることを積み重ね、話しやすい雰囲気作りを行っていく。自分の考えを振り返る時間を確保し、自分の考えを見つめ、課題や問いを見つけることができるようにしていく。 5年 発言をする児童が限られている現状を打破するために各個人が自分の意見をもてるように考えを書く時間を確保する。また、反応を返す習慣をつけ、誰もが安心して意見を言える雰囲気醸成する。 6年 根拠を明確にして自分の思いや考えを書いたり話したりする思考力表現力を育てる。振り返りを次の学びに生かすことができる力を育成する。 個別支援学級 自立活動を中心に小集団での行動や人とのかわり方について考える。いろいろな立場の人多様に関わることを通して、友達と活動する良さを知る。
下半期 1年 体験を通しての気づきや学びを大切に、互いの考えの伝え合いや振り返りを充実させる。様々な人とのかわりの中で自分の成長に気づくことができるようにする。 2年 生活科や特別活動など人と関わる活動やどうとく時間の語り合い活動の時間を大切に、自他を認め合いながら友達との関わりを深めることができるようにする。 3年 総合的な学習の時間を中心に自分の考えを伝え合うだけでなく、自分の考えと友達の考えを比較しながら意見を繋ぎ合えるようにしていく。 4年 聞き合い、伝え合うことを通して問いをもったり、課題解決に向けて友達と一緒に最後までやり抜いたりする力を高めていきたい。友達のことを受け止めながら、話し合いの中で新たな問いをもち、学び続けることができるようにしていく。 5年 総合的な学習の時間を中心に、話し合い活動の時間を充実させることで、友達の意見に繋げて自分の意見をいえるようにする。話し合いの場面では、折り合いをつけたり、意見を合わせたりして考えを深めることができるようにする。 6年 教科・領域の中で意見を伝え合う中で自分の考えを深化させられるよう、話し合いの充実を図る。課題解決に向け、じっくり考える時間、じっくり取り組める雰囲気大切に、誰もがあきらめず取り組み、自信をつけていけるようにする。 個別支援級 自立活動の学習を中心に学級や学年などの大きな集団について考えたり、振り返ったりする。いろいろな立場の人と多様に関わる経験を積み重ね、友達と活動する良さを知る。



豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳を要とした学校の教育活動全体を通して、自分や相手のよさを認め合いながら他者と関わることを楽しめる子どもの育成をしていく。②横浜朝鮮初級校との交流を通して、他者を理解する心を育て、人権感覚を豊かにする。また、人権週間・月間の取り組みを通して、その意識を継続的に高めていく。
担当	道徳部・人権教育担当

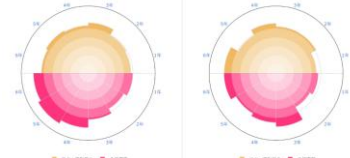
豊かな心に関わる本校の状況
(1)豊かな心に関わる実態 素直な子どもが多く、目の前の課題に全力で取り組む姿が様々な場面で見られる。また、地域で子どもを育てるという基盤が構築されており、様々な教科や日々の生活の中で青木のまちの人とのつながりも見られる。しかし、全国学力・学習状況調査の結果などから、決められていることはできてもなかなか自主的に考えて取り組むことが難しかったり、話し合いの際に、友達の話や意見を他人ごとになっているというような姿勢が見られることが課題である。 地域の方とのかわり、縦割り活動をや日常活動の中、生活科や総合的な学習の時間など、様々な場面を通して、成功体験や感動体験を大切にする授業の研究を目指し、多様な考えや思いを大切に自分たちで学びを創るための力を高めていく必要がある。 (2)これまでの学校の取組状況 ①道徳の授業を中心に自分や相手のよさを認め合う授業を人権週間で全学年行い、教員同士が互いに授業を見合う。道徳の時間の振り返り内容を「人権の木」として掲示物を作り、全児童の意識を高めた。 ②人権教育の視点からの取組 人権週間では各学級で大切にしたいことを話し合い、12月は道徳の授業を中心に、人権意識を高める時間を設定した。 また学区にある横浜朝鮮初級学校との交流を、学校間で行き来し、一緒に行事に取り組むなど各学年実態に応じて継続して実施している。交流を毎年確実に積み重ね、それぞれのよさを尊重できる心の育につなげるようにしている。

今年度の目標
子どもたちが自他のよさを認め合いながら、自己肯定感や自己有用感を高められることを意識した取り組みや授業づくりを行う。

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○道徳の時間だけではなく、全教育活動の中での道徳教育を全職員が意識しながら、様々な場面で豊かな心の育成ができるように取り組みを全学年で行う。 ○道徳の時間では、日常の場面から問題意識を高めて授業に取り組み、振り返りの時間を毎時間しっかりと確保し、再び日常に繋げられるよう意識した授業実践を行う。 ○人権の教育の理念である「自分も相手も大切に」のために、各学級で大切にしたいことを話し合い、学級の取組目標をカードに記入し、掲示物を作成する。 ○横浜朝鮮初級学校の職員と年度当初に交流計画を立て、各学年実態に応じて交流を実施する。職員同士の交流も深めていくことを意識して交流会に参加する。 ○教職員の人権意識を高める校内研修を実施する。今年度は、子どもの社会的スキル横浜プログラムで育くむ自分づくり、仲間づくり、集団作りをテーマに実施する予定である。計画的にYPを活用し、次年度に繋げていくようにしている。 ○異学年交流（縦割り遊び、縦割り掃除）を推進し、教育活動全体を通して学年を超えた支援で、他学年を思いやる心を育てる。
下半期 ○道徳の時間の振り返り内容を中心に全学年で掲示物を作り、意識を高めていく。 ○道徳や子どもの社会的スキル横浜プログラムを中心とした人権意識を高める時間を設定し、人権の樹を作成し、掲示する。 ○横浜プログラムの実践を報告し合い、充実させていく。（毎月計画を立て、記録していく。） ○横浜朝鮮初級学校との交流を、感染状況を鑑みながら、各学年実態に応じて実施する。 ○異学年交流（縦割り遊び、縦割り掃除）を推進し、学年を超えた支援で、他学年を思いやる心を育てる。浜プログラムの実践を報告し合い、充実させるために毎月計画を立て、記録をしていく。 ○横浜朝鮮初級学校との交流では、各学年実態に応じた内容を検討し実施する。 ○異学年交流（縦割り遊び、縦割り掃除）を推進し、学年を超えた支援で、他学年を思いやる心を育てる。廊下であったときにも声を掛け合えるような深まる交流をしていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①運動に親しむ機会として年間を通じて体力アップの時間を設け、運動委員会を中心に企画、発信していく。また、家庭で取り組める運動例を学校HPなどで年度初めから発信していく。②健康課題を学校保健委員会で議題に取り上げ、児童から生活改善を図れるようにしていく。また、食育タイムを通年で行うことで食への関心を引き続き高められるようにする。
担当	体育部・保健・食育部

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 体育・健康に関する実態 ・3年生以上は週3回以上運動に取り組んでいる児童の割合が多く、月に数回と答える割合は少ない。低学年の児童は週に1～2回の割合が多く、月に数回と答える割合は少ない。このことから、体育の学習以外にも、日常的に運動習慣がある児童が多くといえる。 (2) 体力の概要と要因の分析 令和7年度新体力テストから ・持久力の項目は全学年男女ともに平均を超えている。 ・項目別で見えていくと「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」「反復横跳び」が平均を下回っていた。下肢の瞬発力や敏捷性、巧緻性が弱い傾向が読み取れ、偏りがあることが伺える。 

今年度の目標
①子どもが体を動かすことの楽しさや心地よさを味わうとともに、その大切さを知り、より多くの子どもたちが運動好きになることで、運動の日常化を図る。②健康に関心を持ち、食や命の大切さに気づき、望ましい生活習慣を身に付け、進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○体育部・運動委員会では、運動機会確保への取組として体力アップの時間を設定し、長期休業中に取り組めるようストレッチのやり方を伝えていく。巧緻性を高める運動を中心に日常的に取り組める運動を続けていく。 ○運動を通して自分の考えや思いを表現できる力を育むために、体育の学習カードに自分の考えをまとめたり、友だちとアドバイスし合ったりできるようにする。また、中・高学年では互いに見合ったり、よりよい動き方や方法を考えて認め合うような時間を増やしていく。 ○学校保健委員会では、健康診断や体力テストの結果を基に課題を明らかにし、子供が主体となって解決法を協議し学校全体で取り組み、地域家庭と連携を図り子ども一人ひとりの意識向上や行動変容につなげていく。昨年度から再開した給食後の歯みがき、食育との連携、長期休業中の生活カードに継続して取り組み、生活の中での定着を図っていく。 ○横浜市の食育キャラクター「バランスイ〜ナちゃん」を使ったバランスイ〜ナカードを活用し、食育を進めていく。
下半期 ○上半期に行ってきた内容を精査し、運動機会の確保のために体力アップの時間を活用して発信していく。（継続的に短縄・長縄などの基礎体力が向上できる運動も行っていく。） ○スポンフェスでは体を動かす心地よさや集団で表現する楽しさなどを感じられるように一人ひとりが自分なりの目標をしっかりともてるようにする。 ○学校保健委員会で話し合った内容を学校だより等で発信し、各家庭でもよさと課題の共有をして今後も学校・家庭・地域で継続して見ていけるようにしていく。 ○横浜市の食育キャラクター「バランスイ〜ナちゃん」を使ったバランスイ〜ナカードを活用し、食育を進めていく。